

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年12月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(業況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	県内の醤油出荷量は、前年同月に比べ微減であった。累計では大幅に減少している。その他として、醤油価格の改定の動きが出てきた。原油、原材料の高騰によるものであり、トップメーカーから約11%の改定が発表され、県内メーカーも価格の改定に動き出している。
	パン・菓子製造業 (主にパン)	パンの原材料並びに包装関係、ガソリンの高騰などの影響により経費の上昇はなかなか商品単価に転嫁出来ず、経営を圧迫している。
	パン・菓子製造業 (主に菓子)	前年度に比べあまり変化はない。
繊維・同製品	織物業 (小松方面)	合繊分野では、中近東向けの差別化織物で堅調な動きが見られる。国内向けのインテリア織物は厳しい。
	その他の織物業 (織マークの生産・加工)	12月は昨年同月に比べ売上が約50%落ち込んだ。今年は組合員企業4社が廃業しており、今後不安を抱いている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業 (能登方面)	全体的に入荷量は順調だが、価格が低迷している。その中でも能登ヒバ(アテ)材は価格が上昇している。
	製材業、木製品製造業 (加賀方面)	12月も依然として状況は悪い。全体的な需要に乏しく活気が感じられない。資材価格もまだ底見えずといった感じである。
	家具製造業	原材料の高騰などにより、生産及び業績は厳しさを増している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷量は、前年同月に比べ101.0%の微増出荷となった。官公需、民需では官公需が115.7%、民需は90.0%となり、民需は相変わらず厳しい状況になっている。
	粘土かわら製造業	売上は増加したが、重油、ガスの高騰や仕入品の値上げなどで収益状況は悪化している。平成19年は地震の影響や住宅着工数の減少など厳しい一年であった。平成20年は景気が良くなることを祈っている。
	陶磁器・同関連製品製造業	昨年同期と比較し、約7%程度の売上減である。販売価格についても変動は無い。収益状況についてもこれに伴い減少している。その他として、原油高については特に影響の情報は無いが、今後、箱及び緩衝材等に影響が出て来る可能性が予想される。
	砕石製造業	12月の組合取扱出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷量が、4.6%減、合材用アスファルト向けが26.1%減、全体出荷量は8.5%減となった。4月～12月期でも、特に合材用アスファルト向けが22.7%減と大幅に減少し、全体出荷量でも6.9%減と厳しい状況にある。このような状況下、原材料に関するコスト高、更には燃料費の高騰による輸送費が大幅に上昇し、経営環境を大きく圧迫している。
鉄鋼・金属	鉄素形材製造業 (鉄鉄物の製造)	12月は比較的順調に推移し、年末を控えた受注で企業格差はあるものの、多忙な月であった。しかし、諸資材の値上がりで経営を圧迫しているなか、追い討ちをかけるように、来期は鋼造主材の鉄錠が1トンに対して2万円近く値上がりする気配を見せている。このことに対し、鋼造業界は「適正取引の実行」を含め、その対応を模索・検討している。
	鉄素形材製造業 (鉄鉄物の製造・修理)	依然として景況は順調に推移しているが、原油高並びに円高などマイナス要因が進行しており、今後の企業業績の悪化を憂慮している。
	非鉄金属・合金圧延業	特に変化は生じていない。
	一般機械器具製造業	工作機械業界では売上や経常利益は当初の数字より若干増加するものと見込まれているが、これは国内販売が増えている訳ではなく、海外受注の増加によるものである。団地内企業においても海外が大きなポイントとなるであろうという見方である。
一般機器	機械金属、機械器具の製造①	原油高の高騰による影響は今のところ見られない。
	機械金属、機械器具の製造②	操業状況に特に変化は見られない。ただし、材料や副資材などの調達・購入品の価格上昇がコストアップを招き、収益を圧迫し出している。その他として、米国の景況や中国の経済政策の動向が先行き不透明感を醸成しつつあり、より慎重な経営姿勢が見受けられるようになってきた。しかし、マーケットのグローバル化が進んだ建設機械や工作機械業界の強固な動きに呼応しており、そんなに消極的な側面は現れていない。
	プレス、工作機械	当業界は依然としてインドや中国などの外需を中心に好調を維持している。工作機械業界も今年度の受注総額は過去最高となる予想であり、しかも来年度も今年度と同等の受注が見込まれており、来年度も期待している。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	国内生産の高級二輪の輸出が急激にダウンした。当地域のチェーン及び冷間鍛造部品の売上高に影響してきた。上期に比べ下期の売上ダウンは避けられないが数字的には不透明である。その他として、原油高、サブプライムローンの影響は既に出ている。数字的にはつかめていない。
	繊維機械製造業	繊維機械の生産は、平成20年の前半は落ち込むが、後半には回復するとの見通しである。しかし、組合員は仕事量の確保に気を引き締めている。その他として、建設機械、工作機械、その他産業機械等については、当面好調が続くとの見方が多いものの、アメリカ経済の減速が現実化している状況や、原油高、円高など不安材料も多い。
	機械、機械器具の製造 又は加工修理	繊維機械関係では、中国向けが好調であったが、環境問題でウォータージェットがストップしている。ピークは過ぎた模様。原油価格の高騰が動力・燃料・運送費ばかりでなく多方面への波及が懸念され先行きは不安。
その他の製造業	漆器製造業 (加賀方面)	回復の兆しが見えた先月に続いて期待された今月であったが、月後半の年末にかけて失速状態となり、全体としては昨年並みの数字になった模様。しかしながら9月以降は前年対比で横ばいもしくはプラスの状況が続いており、大雪など特殊なマイナス要因がなければ年度を通した生産額の下げ止まりが期待される。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年12月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(業況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	特に変化は見られない。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は依然減少している。水産物の需要増につながるよう努めているが、経営は厳しい。
	一般機械器具卸売業	例年の12月とは違い、住宅着工数の落ち込みから閑散とした年末であった。業界も年末年始を連休にする組合員も多く見られ、時代の流れを感じさせられた。その他として、多少の商業施設がオープンしたものの業界を活気付けるほどには至らなかった。1月や2月はどのようなのか不安である。
小売業	百貨店・総合スーパー	12月は前年比100.81%と昨年とほぼ変わらなかった。前半は苦戦を強いられたが、ボーナス後のクリスマス商戦・年末商戦で全体的に前年比を上回り、何とか前年まで持っていた感じである。個店によって格差が生じてきている。仕入商品の売れ筋を見極めることが出来るか出来ないかによって差が生じている模様である。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	気温の低下と共に、先月に引き続いて冬物衣料の売上確保を大いに期待したが、積雪も少なく上・中旬まで伸びずに苦戦した。最終的には、中旬から年末にかけての商戦も手強い、前年並みの100.5%で推移した。
	鮮魚小売業	師走に入り入荷量も安定してきたが、初旬はブリが不漁で入荷量が少なく、お歳暮の時期とも重なり高値となった。上旬は雪の影響も少なく全体的に入荷量も安定し、価格も安定していたが、中旬以降は天候の悪化の影響により、入荷量、種類ともに少なく、価格は上昇している。
	米穀類小売業	米穀の販売高は年々減少しており、消費の減少に歯止めが掛からない様相である。来る年が少しでも上向きになるよう期待したい。
	機械器具小売業	12月の地域店の伸びは、90%であった。液晶・PDPテレビの台数出荷は昨年比100%を確保できたが、売価ダウンが続いており、売上金額伸び率を大幅に押上げる事が難しい状況になってきている。また、灯油の高騰・暖冬による冬物商品の不調に変わり、ルームエアコンが台数伸び150%、エコキュート伸び130%と伸びたものの液晶・PDPテレビの単価ダウンをカバーするに至らなかった。液晶・PDPテレビの単価ダウンは、昨年12月100に対して90%となった。
	燃料小売業	12月は各油種の大幅値上げにより、調査開始以来の最高値を更新した。その他として、暖冬と原油高騰による節約志向で暖房用燃料の需要が極めて不振である。ガソリンも同様に値上げによる影響で節約ムードが高まっている。
	他に分類されない その他の小売業 (土産物)	観光客、売上とも後半三連休の影響で前年を上回った。土日祝日は順調であるが、平日の客数は少ない。市内の和風旅館や温泉旅館の不賑が業界の厳しさを現している。
商店街	近江町市場	年末は天候も良く品物の入荷も良かった。販売価格はやや安めだが売上は増加傾向にあった。
	尾張町商店街	昨年は「勝ち組」と「負け組」とに峻別された年であったように思う。そしてもう一つ、『生き残り組』が個性を保つことによって自らの存在価値を示した年でもあった。さて、では新年はと言えば、『生き残り組』の価値が本物であったのか、見かけ倒れであったのかが問われ、峻別されて行くような気がする。年末に「偽」という言葉が言われていたが、形だけを追い求めれば偽になってしまし勝ちであり、本当の商いのところを持つてすれば「真」の価値が生成されるのではなからうか。
	片町商店街	先月に引き続き、冬物衣料やシーズン物の貴金属(時計、アクセサリー類)が好調であった。今月はクリスマスの雰囲気を出すため、中心商店街全体で街中を幻想的なイルミネーションで彩った成果も手伝って、夜の飲食店も賑わい、平日、休日ともに入店は前年に比べ微増となった。
	堅町商店街	空き店舗が増え、街の商業種整備が行われていないため、商店街の魅力が落ちている。その他として来街客は増えたが、イベントなどの影響による一時的なものであるとの見方が強い。
サービス業	旅館、ホテル (金沢方面)	原油の高騰により個人旅行の出控えなどや、年末の積雪情報の影響もあり大変厳しい状況が続いている。また仕入商品もアップしており、政府の早い対策を望みたい。
	旅館、ホテル (加賀方面)	平成19年は、自然災害の風評による影響を引きつづる一年となった。しかし今月は、前年に比べ宿泊人員は若干プラスとなった。来年以降もこの勢が続くように注視していきたい。
	旅館、ホテル (加賀方面)	全般的に実質所得の低下による先行きの不安が生じ、消費の抑制傾向が更に強まっていると思われる。それに伴い、旅行の需要の減退が考えられる。その他として、原油の高騰に伴う仕入価格などの高騰により、旅館経営が圧迫されている。妥当に価格を上げたいが、供給過剰による競合が厳しくできないのが現状であり、今後どうなるのか心配である。
	旅館、ホテル (能登方面)	前年同月に比べ、宿泊客数は減少している。それに加え、仕入商品価格の高騰や個人消費価格の減少は旅館経営を更に圧迫している。
	自動車整備業	継続検査実績車輦数は、前年同月比2.7%減、前月比20.5%減となった。新規検査状況は、前年同月比7.0%減、前月比23.0%減となった。
建設業	一般土木建築工事業	公共事業費の長期に亘る削減傾向は、競争の激化を招き、低入札受注が一段と厳しく感じられる。また、原油価格の高騰で建設資材等の価格が上昇し、それが工事全体に響き、利益率が極端に悪くなっている。この事は経営の改善を求められるものであり、諸々の経費支出の見直しを図らなければならない現状である。その他として建設業界が直面している経営上の問題点は、人件費以外の経費の増加に加え、資材等の仕入単価の上昇が強まっていることに反しての販売単価の低下・上昇難の問題点、銀行等の貸出金利の上昇傾向が強まっている影響での金利負担の増加の問題が挙げられる。
	板金・金物工事業	木造住宅の受注が大きく落ち込んでいる。
	室内裝飾工事業	原材料の値上げについては、ブラインド関係は3~5%の値上げ、床材は各メーカー共に特定商品のみ値上げした関係で、12月は影響は少ないが、今後への影響が心配されている。いずれにしても組合員企業とメーカー間屋との力関係で影響の受け具合が違っている。
	管工事業	配管材料値上げのなか、ガス水道新設工事件数は、前年同月に比べ減少している。
運輸業	一般貨物自動車運送業 ①	軽油価格は今月も7円値上げ。運輸業界はもう限界に来ている。
	一般貨物自動車運送業 ②	雪が少ない影響で、運行条件も良く、師走の繁忙感はあるものの売上高は前年同月に比べてマイナスである。一段の軽油価格アップで収益悪化と資金繰りに苦慮の状況。